

ラオス・タイ旅行記

(首都ビエンチャン：その1)

戸田 順也

3月4日～14日の間、ラオス（首都ビエンチャン、古都ルアンパバーン）とタイ（チェンマイ）を旅してきましたので、数回に分けてその報告をします。

今回は、ビエンチャンに到着の翌日分をまとめてみました。

ところで、「ラオス」ってどこ？」「新聞などのツアー広告にはラオスのツアーなんか見たこと無いよね」「何故ラオスへ行くの」などという声が聞こえてくるような気がします。

そうです。ラオスというのは現在の日本ではあまりなじみの無い国で、報道にもほとんど現れることはありません。ご存じの方には釈迦に説法ですが、ラオスはインドシナ半島の中であって、タイ・ベトナム・カンボジア・ミャンマーそして中国に囲まれた海の無い内陸国で、未だに社会主義国で、アジアでも最貧国の一つといわれている国です。先日テレビを見てましたら、国民の平均月収は4,200円ほどとか言っておりました。

そんなラオスへ何故行くのか？確かに最近ではラオスのことを聞く機会はほとんどありませんが、我々が若いころにはベトナムは言うに及ばず、ラオスなどを含んだインドシナ半島での戦争が激しい頃で、毎日のようにこれらの国々のことが報道されていたことを記憶されている方も多いのではないのでしょうか。ラオスに関して言えば、”パテート・ラーオ（ラオス共産軍）”などと言う言葉を耳にしたことがあるのではないのでしょうか。そういった歴史をくぐり抜けて、未だに最貧国と言われながらも、街全体が世界遺産登録されているルアンパバーンを有するようなラオスに一度は行ってみたいとかねがね思っておりました。そして今回思い切って出かけたというわけです。

今回の旅に出かけるに当たって、一つ期するところが有りました。それは、旅行社が用意するツアーに便乗するのではなく、一人で（それも、バックパックを背負って）行ってみたいということです。

「古稀の祝いをする歳になって、何故バックパックを背負って出かけるの？」と、また言われそうですね。そんな深い意味はありませんで、“若いときに、一度はやってみたかったバックパッカーとやらをやってみよう”という、単純な理由からです。この歳になって、40リッター以上のバックパックを背負って出かけることができれば、まだまだ自由に、そして安価に世界中を回れるのではないかなどと、淡い期待を少しは持っています。

搭乗者全員を確認したのか出発予定時刻より少し早めに動き出して離陸となりました。バンコク～ビエンチャン間は1時間強で特段の問題もなくビエンチャン空港に到着、初めてのラオス入国でどうなることやらと思いましたが、全く問題なく入国の手続きも済みました。社会主義国とは言いながら、開放政策も進んでいるので観光客には寛容なのでしょう。後は、ホテルからの無料シャトルのドライバーとうまく会えるかどうかでした。でもビエンチャン空港は小さな空港でしたので、通関を終えて外へ出たら“TODA JUNYA”と大きく書いた紙を持った人がすぐ近くにいて難無く落ち合うことができ、ホテルにも予定通りに到着することができました。

翌3月5日が実質的旅行初日です。

 <p>ビエンチャンのホテル</p>	 <p>ホテルの部屋</p>	<p>ビエンチャンのホテル 設備類もたいしたことのない安宿ですが、高齢バックパッカーには適当。ベッドはキングサイズで、何故か天蓋(?)用の柱が四方にある。</p>
 <p>ワット・インペン</p>		<p>ビエンチャンで最初に訪れたお寺(ワット・インペン)</p> <p>(ちなみに、“ワット”というのは“お寺”の意味)</p>
 <p>迎賓館(正門)</p>	 <p>迎賓館(裏門)</p>	<p>迎賓館。 最貧国にはふさわしくないような気もするが、外国の要人を迎えるには、やはり必要ですかね。</p>
 <p>迎賓館(裏門:パノラマ)</p>		



タラート・サオ・バスターミナルはビエンチャン周辺の近中距離バスが発着。乗降客でごった返していた。

タラート・サオ・バスターミナルで見かけた日本国民からの贈り物(?)。新車なのか中古なのかは不明。



バスターミナル近辺の路上の野菜売り。近郷の農民が売りに来ているようだ。



ワット・ホーパケオ

ラオスには右側の写真のように、手のひらを前面に向けた仏像が多い。どこかでその意味を読んだ気がするが思い出せない。

ビエンチャンに遷都されたときにエメラルド仏を安置するために建立された(1563年)。1779年のシャム王国(タイ)の侵入で破壊されエメラルド仏も持ち去れ、1936年に修復されたとのこと。王の保護寺院のため僧侶がいない。

ここは、古くビエンチャンでも有名な寺院のためか観光客(外国人、ラオス人)も大勢来ていた。また、本堂内は撮影禁止、そしてどこの寺院も同じだが、本堂内へは靴を脱いではいることになる。



初心者向けのラオス料理セットがありましたので、それを頼ってみました(左写真参照)。8品の料理セットでやはり香料の強いものや、味があまり無いものもありました。ご飯は写真右側の竹で編んだおひつ(ティップ・カオ)に入っている赤いもち米でけっこう美味しく頂きました。

最後にデザートとして果物が出て、お茶も出るコースでしたが、果物(スイカ、パイナップル、洋ナシ他)は洋ナシ以外はあまり美味しいとは言えませんでした。お茶は“ティー”を頼んだのですが、見た目日本茶でしたが香料が入っていて慣れない私にはちょっと飲みにくい感じではありました。料金は130,000KIP(約1,500円)(セット料理と小瓶のビール)でしたが、ショー付きのコース料理なのでまあまあというところでしょう。

